

2009年5月23日

「医学ジャーナリストを問う—衰退する検証力と発信力」

読売新聞東京本社社会保障部次長 阿部文彦

【慢性期医療の陥穽】

高齢者医療→医療崩壊の玉突き現象

東京消防庁「高齢者搬送人員の推移と高齢者人口の推移」より

	1993年	2003年
搬送人員	38万2410人	61万6996人
高齢者搬送人員	9万7170人	21万9778人
その割合	25・4%	35・6%
高齢化率	12・3%	17・2%

人口動態統計「医療機関における死亡割合の年次推移」より

	1950年代	1990年代
医療機関で死ぬ人の割合	2割	逆 8割
自宅などで死ぬ人の割合	8割	転 2割

※「スパゲッティ—症候群」 v s 「がんばらない医療」

高齢者増→高齢者搬送人員増→ベッドの空き不足

→救急の受け入れ困難化→地域医療（急性期医療）の崩壊

※フリーアクセスも医療崩壊の一因に

【将来の危機を回避する3つの処方せん—慢性期医療の視点から】

- ① 在宅療養システムの充実、整備
訪問看護ステーションなど、介護と医療の連携強化
- ② ケア付き住宅と、介護施設の整備
公的補助で、食事サービス、24時間の介護、医療付きの安心住居を確保
- ③ 家庭医、総合医の育成
総合的な臨床能力の高い医師の養成
メディカルスクールも検討課題